

指導の重点

作り出す喜びを味わい、豊かに表現したり、 見方や感じ方を広げたりする授業

- 魅力ある題材や材料、表現方法を提示し、子供の技能や経験とのつながりを踏まえながら、表現への動機、意図や目的を大切に扱った単元を構想することにより、子供の主体的な表現活動を生み出すようにする。
- 主題や目的、意図を表現する過程で、振り返りや対話的な学びを効果的に位置付け、造形的な視点を手がかりに、一人一人が課題意識をもって粘り強く表現・鑑賞を行えるようにする。
- 知識と技能が一体的に働くよう指導方法を工夫するとともに、身に付けた知識や技能を活用して創造的な技能につながる表現となるよう配慮する。
- 表現及び鑑賞の場において、【共通事項】に示された造形的な見方・考え方の扱いを重視し、子供が造形的な感覚を十分に働かせることができるよう、発問や教師の出を工夫する。
- 育成する造形的な資質・能力を明確に示し、授業の中で求める資質・能力を身に付けた具体的な子供の姿を想起して学習課題の設定や評価を行うようにする。
- 小学校においては表したいものをつくる活動と造形遊びのバランスに留意し、材料や用具、場所などに主体的に働きかける十分な活動をとおして、造形感覚や材料感覚を身に付けることができるようにする。

※【共通事項】とは、学習指導要領に示されている、表現と鑑賞の活動を通して共有に働かせる「造形的な見方・考え方」のことである。